

● 2008年度FHT参戦報告会

10月3日に北海道大学構内の百年記念会館にて2008年度参戦報告会を行いました。当日は雨天にも関わらず多くのスポンサーの方や先生方に集まって頂きました。会場には車両を展示しましたが、初めて見る方も多く、特にカウルの完成度の高さに驚かれています。初めて見る方も多く、特にカウルの完成度の高さに驚かれています。

08年度リーダーによる参戦報告の後、懇親会が開かれました。大会後はじめて会うスポンサーの方々も多く、総合20位という結果にお褒めの言葉や叱咤激励を頂き、来年の大会ではより好成績を収めるべく頑張ろうとチーム一同気合いを入れ直すことができました。また多くのスポンサーの方々、先生方が一堂に集まるのを目の当たりにし、改めてこの活動は皆様のご厚意により成り立っているのだと再確認できました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(文責：長沼)



● 文化祭、工学部ロビーでのマシン展示

数多くの学生等に間近でマシンを見て頂く事で、チームの活動を知ってもらうことを目的とし、10月30日、31日の工学部文化祭にてデモ走行や活動報告、ブースへ来られたお客様へ個別に車両の説明を致しました。さらに、11月1日から14日までの間、工学部ロビーにて車両展示を行ないました。

車両展示では、普段は質素な玄関だけにマシンは目を引く存在であり、足を止めて車両を見る人がいるという光景を何度も目にしました。車両の横に活動紹介の小ポスターを張り、活動の内容を知って頂く様にしたため、私たちの活動の認知度も上がったことと思います。しかし、小ポスターの張り出しが車両展示を始めてから幾日が過ぎたタイミングとなってしまった事や教養課程の学生に向けたアナウンスが手薄だったことなど、準備や勧誘に関して反省が多く残る内容となってしまいました。この反省を活かし、今後はより良いイベントを行なっていきたいと思えます。(文責：近久)



● 今年度のマシン設計方針

第六回大会でのFH-02の動的審査の成績は、アクセラ、スキッドパッド、オートクロスそれぞれでトップチームとのタイム差が、0.291秒、0.417秒、5.192秒と、参戦2年目のチームとしてはかなり競争力のあるマシンに仕上げることが出来ました。しかし、加減速の多い競技ではトップチームとの差が大きく、細部の設計にまで手が届いていないことが露呈したように思えます。従って、FH-03では、主に以下の三点に重きを置いて設計・製作を進めます。

①車重の軽量化

②駆動系統の各パーツの見直し

③洗練されたお洒落なパーツの設計

①②については当然すべきことですが、③については、大会会場にて様々なチームをまわっているうちに、あまりにFH-02の各パーツが無骨な形状であることを目の当たりにし、商品性が重要視される本大会の主旨に合う車両とするには、目指すべきことだと考えたので方針にいれました。他にも色々やるべき事はあるのですが、ここでは細かいことは割愛させていただきます。

今月はチーム全体が主にマネージメントの仕事に追われていて、あまり設計に手が回りませんでした。今後は以上の方針に基づいて設計を行っていきます。(文責：大島)